

シリーズ

元気です

32



本番さながらに練習に打ち込むメンバー

雨滝街道に 太鼓の音が こだまする

夜の静寂に響く 太鼓の音

午後八時、国府町の成器地区公民館、夜の帳がおりた雨滝街道沿いのこの建物から、時ならぬ太鼓の響きが聞こえてくる。その雄大な響きは、なんと女性たちによるものである。十一月七日の「鬼太鼓座」との共演を控えて猛練習が続く。この女性たちは因幡万葉歴史館と同じく十年前に誕生した、因幡万葉おんな太鼓の九名のみなさんである。活動のきっかけは、今は廃校となった成器小学校に十五年ほど前まであった子ども太鼓、その太鼓を引き継いだこ



左 岡本孝子さん Takako Okamoto
右 福田満州美さん Masumi Fukuta

因幡万葉 おんな太鼓

とから始まる。当時は今より三名多い十二名でスタート。メンバーも当時は成器小学校に子どもも通わせていた保護者たち、普段から子どもたちを通じてよく知った、気の合う仲間たちである。その子どもたちも今は小学校を卒業し、子どもたち抜きでの活動が定着した。全員、仕事を持つごくふつうの四十代の主婦。みなさん太鼓の経験は皆無である。

ひたむきさを 原動力に

どのようにして、みなさんが世界的なパーカッションリスト集団である鬼太鼓座との共演が

実現するまでに至ったのか。驚くなかれ、なんと指導者なしの独学なのである。とはいえ何の努力もなしにここまで来られた訳ではない。同じ県内東部の気高「逢鷲太鼓」やはるばる広島まで出かけてのステージ演奏の勉強。一生懸命である。そんな中、町内のイベントに出演したりしながら活動は徐々に知られるところとなり、技量も自ずと具わってきたようである。そしてついに、太鼓を追求するものにとつてあこがれのステージにその名を連ねることとなったのである。ここまでの道のりは決して平坦ではない。家族の理解や協力があつて初めてなしたものとと言える。「夢にまで太鼓